

多高通信

第169号 令和元年 8月29日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

科学部

高校生バイオサミット 鶴岡

7月29日から31日までの3日間、鶴岡市先端研究産業支援センターで第9回 高校生バイオサミット 鶴岡が行われ、事前の一次審査(書類審査)を通過した1テーマ3名が参加しました。

75テーマ、のべ200名を超える生徒が集まる生物部門のみの科学発表大会で、日頃の研究成果を4分間という制限の中で行いました。本校は決勝に進出することはできませんでしたが、審査員から直接コメントをいただいたり、他校生から意見をいただいたりすることで、今後の研究における新たな課題を見つけることができました。

学校の枠を外して混成された部屋割りやラボ見学など、生徒間交流が自然と生まれるプログラムとなっていたことも、大変有意義でした。

■船山 遥斗

(塩竈三中出身)

審査員の先生方によるアドバイスの中で、失敗はするかもしれないけれど、飛躍的なアイデアがあるとより良い発表になる」と言われた時、基本に忠実な研究ではなく、今の私たちにしかできない発想に基づいた研究が大切であるということ学びました。

これからは後輩への引き継ぎがメインの活動となりますが、自ら得た経験をこれからの進路だけではなく、将来にも役立てていきたいです。

STAND UP SUMMIT 2019

8月5日、6日の2日間、STAND UP SUMMIT 2019に参加してきました。「このイベントは復興に対



する意識の風化防止と次世代の育成を目的とした東日本震災の復興支援イベントで、今回で6回目を数えます。国内外の学生が東京ビッグサイトに集まり、来賓は自分たちで創っていくという強い意志のもと、震災からの8年間を改めて振り返り、復興の現状や東北が抱える課題、今後自分たちが取り組むことのできる活動について話し合いました。



初日は障害者スポーツを体験し、車イス体験活動やシッティングバレーボールを行うなど、大きな障害物を感じる「ハンディキャップがあっても熱意を持ってプレーする姿が印象的だった」などの感想を持ち、イベントの意義を改めて実感した様子でした。

2日目はセクションごとの活動を行いました。グループごとに復興の現状や課題について話し合い、未来へ向けて何をしたいか、できるのか発表を行いました。最後のパネルディスカッションでは、パネラーとして1年7組の門脇孝太郎くんが選ばれ、司会のパッキンマックンや他の高校生たちと様々な意見を交換しました。現在学校で行われている避難訓練のあり方や、心の復興に必要なものは何か?といったテーマに、熱のこもった議論が繰り広げられました。

とても暑い中行われたサミットでしたが、生徒たちは全国の学生と交流を深めながら、防災減災学習への意欲を新たにしていたようでした。



被災地へのメッセージボードを作りました。

ラグビー部 全国合同チーム大会 KOBELCO CUP 2019

■三浦 祐(3年7組 しらかし台中出身)

合同チームの全国大会であるこの大会では、青森・岩手・宮城の合同チームで東北代表として戦いました。大会前から何度か合同練習ができたこともあり、チームの雰囲気は良く、プレーに関して積極的に意見を出し合うことができました。高いレベルのチームと緊張感のある試合をし、勝利を収めることができましたのは大きな経験になりました。また、チームから東日本選抜に選ばれた選手もいるので、今後の活躍に期待しています。そして、花園予選では、多賀城高校として1つでも多く勝利を収めることのできるよう頑張っていました。

福島大・岩手大・宮城大

アカデミックインターンシップ

本校では学習意欲や進路意識を高めることを目的として、東北地区の国公立大学と提携しアカデミックインターンシップ(AI)を実施しています。今年7月29日に福島大学、8月5日・6日に岩手大学、8月8日・9日に宮城大学のAIが、それぞれ行われました。

■生徒の感想

〇オープンキャンパスだけでなく、AIに参加することでオープンキャンパスとは違った学びを得られると思いました。自分の目で直接見ることは大切だと思つたので、今回参加して本当に良かったです。



岩手大 AIの様子。ドローンの動きをプログラミングしました。

〇高校の勉強がどれだけ大学での講義に生かされているのかを知ることができました。私が興味ある分野は、高校の生物の内容がマスターできていないといつていくのが難しいと思ったのですが、テストのための勉強でなく、自分の好きなことをするための勉強だと思つて取り組んでいこうと思えました。自分のやりたいことを学べるということはとても楽しいことだと思いました!

軽音楽部・家庭部

SEVEN BEACH FES. 2019

8月11日、七ヶ浜の菖蒲



田海水浴場で SEVEN BEACH FES. 2019 が行われました。今年はいベント母体の SEVEN BEACH PROJECT 主催のイベントではなく、本校の軽音楽部・家庭部の主催で 灼熱(あちち) BEACH FESTIVAL として実施し、企画・立案から生徒主体でイベントを立ち上げ、当日は多くの海水浴客で賑いました。

軽音楽部は本校部員の演奏の他に、東京の武蔵丘高校、神奈川の弥栄高校のバンドをゲストとして迎え、特設ステージでライブを行いました。どちらも関東の強豪校で、演奏やパフォーマンスで多くの刺激を受けました。また、家庭部はフードブース 花野夏(はなやか)を開店し、七ヶ浜のカフェ Cafe La Lunaと共同開発したオリジナルメニューを販売しました。

■軽音楽部 山下 朱羅

(2年3組 東仙台中出身)

今年のフェス「灼熱 BEACH FESTIVAL」は「浜の文化祭」をコンセプトとし、軽音楽部と家庭部でアイデアを出しながら進めていきました。大変なこともありましたが、周りの人たちの助けも借りながら、無事リーダーという仕事を全うできました。

今年に関東の学校からゲストバンドをお呼びしましたが、ベースレス編成のバンドや、前日に日本最大のロックフェス ROCK IN JAPANに出演した高校生バンドなど、オリジナル曲の多さや同年とは思えない演奏を目の当たりにして、多くの刺激を受けることができました。また、ゲストの皆さんには海水浴や家庭部のフードブースも楽しんでいただいていたようで、夏の海を満喫してくださっていたようでした。台風の接近で天気が危ぶまれる中、無事にイベントを開催することができました。今回のフェスで得たことを活かし、これからの活動も頑張っていきたいと思つています。

